

☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

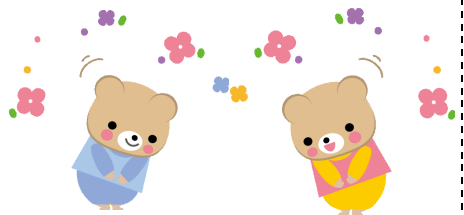
11月10日（月）

『感謝』

講話 校長



11月は、祝日が2日あります。最初が3日の「文化の日」でした。次は「何の日」がありますか？そうです、23日の「勤労感謝の日」ですね。そこで今日は、「感謝（ありがとう）」ということについて考えてみたいと思います。



みなさんの多くの家は、仏様にお参りする「仏教」だと思います。この「仏教」を開いたお釈迦様が、『感謝は、人の心をよい方向へ変える』と教えています。感謝される人は、その相手にとってうれしいこと、助かることをしているので当然「よい心」をもっていますね。その上に、感謝されることがうれしいので、これからももっとそのようにしていこうと思い、「よい心」がさらに強くなります。感謝した人は、うれしいこと、助かることをしてもらったことで、「自分もこうするといいんだな」と気づき、「よい心」をもつことができます。

では、この「感謝（ありがとう）」が自然に出てくるようにするにはどうすればよいのでしょうか。そこで、先生は「感謝名人」について書いてある本を読みました。そこには、最初に残念ながら「感謝（ありがとう）」を忘れてしまっている人について書いてありました。それは、「あたりまえ病」の人だそうです。

- ・遊んでいられるのがあたりまえ
- ・テレビを見ることができるとあたりまえ
- ・家族がいるのがあたりまえ
- ・友人がいるのがあたりまえ
- ・ご飯が食べられるのがあたりまえ
- ・体が思うように動くのがあたりまえ
- ・空気を吸えるのがあたりまえ
- ・水を飲めるのがあたりまえ
- ・生きているのがあたりまえ



……この他にも当たり前はいくらでもあります。

こういった「あたりまえ」はすごく幸せなことなのに、そう感じていない人が「あたりまえ病」なのだそうです。こうなると「もんく」や「ぐち」ばかりが出てきて、感謝するという心をもてなくなっているということです。しかし、「もんく」や「ぐち」ばかり言っていると、人生はよい方向には向いていかない。それどころか不幸に向かっているそうです。初めに話した、お釈迦様の教えの逆ですね。

この後に「感謝名人」になるためのポイントが5つ書いてありました。

- 1 毎日、「ありがとう」を言い続ける。

- 2 なるべくたくさん言う。
- 3 なるべく大きな声で言う。
- 4 最初のうちは、あまり心がこもってなくてもよい。
- 5 慣れたら、「ありがとう」ではなくて、「ありがとうございます」と言うようにする。

どれもすぐにできることばかりですね。

でも中には「お父さんやお母さんにありがとうは、言いづらいな」とか「みんなの前では言いづらいな」ということもあります。そんなときには、まず心の中に「ありがとう」をもてるようにするといいかなと思います。

「ありがとう」が習慣として身につくと、自然に気持ちがやさしくなっていくそうです。やさしい気持ちのときには、周りのことを素直に受け入れることができます。受け入れると自分も同じようにできます。

お釈迦様の教え通りに自分の心がよい方向に変わって、幸せがやってきます。

「ありがとう」にあふれた学校、家族にしていってください。



学芸会通し練習



学芸会に向けて、10月下旬から練習を進めてきました。16日（日）の本番が近づいてきたので、11日（火）は通し練習を行いました。他の学年がお客様として見ているので、これまでの自分たちだけの練習とは違い、緊張した面持ちで真剣に取り組んでいました。

残り3日間で、反省点をさらに練習し、当日は最高の演技をご覧に入られると思います。ぜひご参観ください。

